

ウムチョ ムゥイーザ通信 No. 14

ルワンダ語で「良い文化学園」の意味を表します。



「ADESOC」報告

ウムチョムゥイーザ学園

チャールズ校長より

ウムチョムゥイーザ学園の実現は多くの皆様の直接または間接的な支援により可能になりました。ありがとうございます。

2001年34名の子ども達を初めて迎えました。その多くはストリートチルドレンでした。教員は1人で始めました。

2006年現在ウムチョムゥイーザ学園には426名の子ども達を受け入れました。そのうち207名が女子219名が男子です。教員は15名になり、そのうち9名は女性です。

来年2007年には約500名になります。教員は18名になり、初めての卒業生を送り出すことになります。その卒業式に日本の皆様に参加していただきたいと思っています。日にちが決まりましたらお知らせしたいと思います。

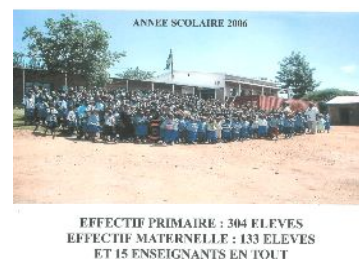
学校を作る夢は幼稚園・小学校を完成させるにはあと4教室が必要です。そしてサッカーグラウンド・バレーボールとバスケットボールコートも作らなければなりません。この夢は願望です。力を合わせれば必ず叶います。

子どもを抱えている教員や教育関係者はその子の将来も抱えています。なぜなら子どもは地球の将来を持っている人だから！みんな一緒に力を合わせれば必ず無知と貧困をなくすことができます。

2006年2学期（5月～7月）の日本からの支援の報告

*時価換算による。単位:円

月	日本からの支援	現地の負担	合 計
5月	250,000	123,154	373,154
6月	250,000	110,752	360,752
7月	250,000	113,086	363,086
合計	750,000	346,992	1,096,992
%	68%	32%	100%



ANNEE SCOLAIRE 2006
EFFECTIF PRIMAIRE : 304 ELEVES
EFFECTIF MATERNELLE : 133 ELEVES
ET 15 ENSEIGNANTS EN TOUT

2006年8月現在の学費の納入状況の報告

単位：人

納入 状況	託児施設				小学校									合計
	年 少	年 中	年長 A	年長 B	1 年 A	1 年 B	2 年 A	2 年 B	3 年 A	3 年 B	4 年 A	4 年 B	5 年	
100%	23	28	12	16	20	19	25	27	17	22	11	13	15	248
75%	0	1	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	5
50%	3	1	3	1	1	2	1	0	1	3	1	2	1	20
25%	3	2	2	1	1	2	4	1	2	2	2	1	2	25
0%	6	7	9	6	13	10	10	13	10	6	7	4	9	110
合計	35	39	27	25	36	33	40	42	30	33	21	20	27	408
退学	1	4	1	1	0	1	1	0	1	1	2	3	2	18

多くの家庭が学費を払えるようにするために、ウムチョムゥイーザ学園の学費は相対的に安く設定しています。

～マリールイズさんの講演会を聞いて～

フリー・ザ・チルドレン（平岡良介 16歳 ・ 八島菜摘 16歳 ・ 田島優子 15歳）

私たちはマリールイズさんから、今年の夏にルワンダについて話を聞く機会がありました。今までルワンダに関わる活動をしてきましたがこんなにくわしいことを聞くのは初めてでした。その講演会の中で一番強く思ったことは、言葉や肌の色、民族など、多くの人が「違い」だと思っていることは、決して「違い」ではない、ということです。自分と「違う」言葉を話しているから、とか自分と「違う」肌の色だから、という理由で争うことはとてもおろかなことだと思います。講演の中で、フツ族とツチ族の民族の分け方を知り、私は呆然としました。同じ血を引いている家族や兄弟でさえ、無差別に民族を分けられ、争わなくてはならないなんて、とても信じられませんでした。日本という国に住む私には、「民族」という考え方がいまいちピンとこなかったからです。もちろん、日本国内でもさまざまな文化や方言があるし、顔立ちだって地方で特徴があります。しかし、そのことで「私とあなたは違うから変だ」とも思わないし、それが当たり前だと思っていました。

だから、講演を聴き、世界で実際に起こっている事実を目のあたりにした時は、自分がどれほど無知であるか改めて思い知らされました。今まで知っていたつもりだったことも、直接の体験として聞く事で考え直すことができました。

また、マリールイズさんの行動力にはとても感銘を受けました。いくら日本語を勉強したと言っても、異国の地で暮らすことは不安でないわけがありません。それなのに、言葉の壁も乗り越え、明るく生きているマリールイズさんの姿から、言葉の違いや肌の色など問題ではないのだ、ということを学びました。それは、マリールイズさんの三人の子どもさんとふれあう中でも強く感じました。

そして、ウムチョムィーザ学園の子どもたちのきらきらした笑顔を見て、できることを精一杯やることが大切だと思いました。私はまだ子どもで、知らないこともたくさんあります。しかし、子どもだからこそできることもたくさんあるはずです。

今回、マリールイズさん親子とふれあい、講演を聴くことで、新しいことに気づいたり、考えるきっかけとなりました。この経験を活かし、「違い」を『個性』として認め合える世界の実現に向けて、今の私にできることを精一杯やろうと思います。

**今回贈ったピアノ/で音楽っていうものはすばらしいと知ってほしい、
そしてそのピアノ/をおもいきり楽しんで使ってほしい。**

2001年に広島の良い良介さんたちは、「内戦で傷ついた子ども達が音楽の力で元気になってもらいたい」と調律師の矢川さんが修理してくれた使われなくなったピアノ3台をルワンダへ贈ろうという目標をたててくれました。

そのために、チャリティーコンサート等を開催し2004年の夏にはピアノの輸送費として90万円ほどのお金を集めることができました。そしてついに、ルワンダの教育を考える会と協力して、2005年の秋にルワンダの子ども達にピアノを届けることができました。

フリーザチルドレンのみなさんありがとうございます。ピアノに最初にふれた子どもたちの感動はすばらしいものでした。



ルワンダへ飛んだ若者たち

2006年8月の例会にJICA二本松訓練所のみなさん6名に参加していただきました。10月3日に日本を出発して5名はルワンダ1名はマダガスカルで2年間幼稚園教諭・農業指導・建築土木等海外支援のために旅立ちました。



以下例会での「励ましの言葉」です。

- ・識字教育を若い母親が真剣に学んでいました。読めないことの怖さ危険、反対に読めることのすばらしさを感じると思います。
- ・学ぶ意欲があれば損得勘定抜きに真剣に学びます。条件が整っていないからこそ、何もなければいけないから、何かをしなくてはならない。自ら学ぶ意欲を大事にしてください。
- ・まとめることの大変さを感じると思いますが、チャレンジしてください！
- ・みんなを平等に見る目を養ってください。噂ですべてが流れることもあるので、気をつけてください。
- ・わからないことはそのままにしないで、すぐその場で質問してください。コミュニケーションのとり方は日本と違うので、着飾った言葉ではなく、明るい心で接していけばきっととけこめるはずですよ。
- ・体に気をつけて、頑張ってきてください。ぜひお便りを待っています。2年後に帰国報告を聞けることを楽しみに待っています。

10月6日ルワンダ着
20日間ホームステイ
をしながらルワンダ語
の研修を受講し、それ
ぞれの支援先へ向かいました。



『エクスポート・ジャパン(株)のご寄付について』

齋藤照子



当会のホームページを介して寄付を申し出てくださった会社を、去る9月13日ルイズと訪ねました。

エクスポート・ジャパン(株)という会社で、インターネットを特化して日本企業の海外向けPRを行なう専門企業です。大阪に本社があり、私たちが訪問したのは渋谷にある東京オフィス。2000年4月設立の若い会社ですが、売上の1%を海外で人道支援を行なう団体へ寄付する活動を、昨年1月から開始したとのこと。社長の高岡謙二様は39歳、社員も若く国際色豊かで生き生きと仕事をしておりました。

当会への申し込みは、社員が「ホテルルワンダ」を観て触発されたのがきっかけだそうです。ルイズの話を中心に現地や当会の活動状況、支援のあり方等、本社と東京のネット会議で約2時間話し合うことができました。

さっそく9月25日、486,404円のご寄付をいただきました。これ以後は、会社の期に則して10万円を継続してご支援くださるとのありがたい申し出をいただきました。

私たちは、今後、このお心に誠意をもって確実にお答えしていく責任があります。感謝を忘れず、各自ができることを、喜びを持って明るく楽しく実践することが、ルワンダの子どもたちに通じると共にご協力くださる皆さんにお答えする道だと思います。

エクスポート・ジャパンの皆さん、本当にありがとうございました。

ルワンダの子どもたちへ ルワンダフルクリスマスキャンペーン

ルワンダフルクリスマスキャンペーン期間：

12月1日～12月31日

ルワンダの子どもたちへの募金箱を設置していただける場所を募集します！！

箱は思い思いの箱を利用いただき、考える会として箱に表示するシールをお送りします。身近なところでの募金をお願いします。

☆掲示板☆

ルイズの言葉が、「NHKラジオ深夜便」11月号に掲載されました。

1冊350円

☆各種振替口座番号のご案内です！☆

会費振込・寄付・募金

郵便振替口座：02290-0-97126

加入者名：NPO法人 ルワンダの教育を考える会



ソーラー発電…近い将来、教室にソーラー発電機をつけ、電力の確保をしたいと考えています。

郵便振替口座：02200-2-77634

加入者名：ルワンダ ソーラー発電P



事務局では、事務局スタッフ及び各種イベント開催時、お手伝いくださる方を随時募集しています。（イベント開催時の半日でもOKです。）
よろしくお願いします。

編集後記

「冬を愛する人は心広き人、根雪を溶かす大地のような僕の母親…」の歌詞のように、ルワンダの子どもたちの笑顔を見守ってあげられるような心広き人になりたいものです。

次回はルイズのルワンダ訪問(12月1日～21日)の様子を報告できると思います。

ルワンダの教育を考える会

理事長 高橋 啓子

副理事長 カベンガ・リルイズ

〒960-8252

福島県福島市御山字中川原44-2

サンコーポ1号棟 102号室

TEL / FAX: 024-533-8289

ホームページ: <http://www.rwanda-npo.org>

e-mail: info@rwanda-npo.org

